

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

事業名 **新**清流の国ぎふ花と緑の振興センター設置運営費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 花き係 電話番号：058-272-1111 (内 2866)

E-mail： c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 7,175 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	7,175	0	0	0	0	0	0	0	7,175
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- 令和2年度に国際園芸アカデミー有識者会議から、花と緑の産業を活性化させるために業界の壁を越えて産学官が連携する「ぎふ花と緑の振興コンソーシアム」と、担い手育成及び産業振興の拠点となる「清流の国ぎふ花と緑の振興センター」の設置について提言を受けた。
- 令和3年度は、コンソーシアムを設立し、花き振興企画コンペなど新たな取組みを始めるとともに、若手花き生産者等のニーズ調査を行い、振興センターにおける担い手育成支援について検討を行った。
- 県内の花き生産を維持発展させるためには、これまで支援の行き届かなかった後継者や独立就農希望者等に対して、基本的な栽培管理技術の習得から多様な花き品目ごとの課題解決、さらには有利販売を行うための最新の経営情報の提供など、きめ細やかな支援が必要となっている。

(2) 事業内容

花き生産の担い手育成支援 7,175 千円

- 高度な花き生産技術についても迅速に支援するため、農業技術センター内に清流の国ぎふ花と緑の振興センターを設置する。

- ・ 市場トレンドを的確に捉えた商品開発を促進するため、花き業界の最新情報を提供する経営研修を開催する。
- ・ 令和5年度から開始予定の技術研修について、研修生を募集するとともに、オーダーメイド型研修の希望者に対して研修計画の作成を支援する。

(3) 県負担・補助率の考え方

清流の国ぎふ花と緑の振興センターは、県内の花と緑の産業の活性化を図るために設置する組織であり、県が負担することが妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	235	業務旅費
需用費	1,337	事務用品、センター概要チラシ印刷
役務費	120	通信運搬費等
委託料	4,773	研修会運営業務委託料
備品購入費	528	事務備品等設備
その他	182	会議室使用料等
合計	7,175	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ①清流の国ぎふ花き振興計画（令和3～7年度）
- ②国際園芸アカデミー有識者会議報告書（令和2年度）

(2) 国・他県の状況

国では、花き振興法に基づく基本方針を令和2年に見直し、暑熱対策やスマート農業技術の導入などの栽培技術の向上により、生産者の経営安定を図っていくこととされた。

(3) 後年度の財政負担

清流の国ぎふ花と緑の振興センターは県が設置する組織であり、運営経費に関して、県が継続して財政負担する必要がある。

(4) 事業主体及びその妥当性

県の組織であり、県が事業主体となることが妥当である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・清流の国ぎふ花と緑の振興センターが運営する担い手育成支援施設において、県内花き生産者の能力向上を図り、経営安定を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R2年度	R3年度	R4年度	終期目標	達成率
	(R2)	実績	目標	目標	(R7)	
① 花き産出額	47億円	47億円	62億円	64億円	70億円	/

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	
令和3年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナの影響による冠婚葬祭等業務用需要の減少や家庭用需要の拡大などの花きの需要構造の急激な変化に対応する必要がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の花と緑の産業振興の拠点として、需要の変化に対応した新たな商品づくりや担い手育成を進める。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	